

拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制の構築を目標にした研究

研究分担課題 東京近郊地域におけるHIV感染症患者の受診行動分析

研究代表者 猪狩英俊 千葉大学医学部附属病院 感染制御部長 准教授

研究分担者 塚田弘樹 東京慈恵会医科大学附属柏病院 感染制御診療部長 教授

研究要旨

HIV 感染症患者の高齢化に伴い、基礎疾患、介護・看取りも想定した診療体制の構築が必要である。千葉県内では 1400 人の HIV 感染症患者がいるが、その多くは、千葉市と東京隣接の都市に集中している。具体的には千葉市、船橋市、市川市、柏市、松戸市、浦安市に多い。千葉県内の HIV 感染症患者は 40 歳代が多かった。50 歳以上の患者比率は、自治体間で差がみられた。しかし、今後 10 年後には 50 歳以上の患者比率が確実に増加する。

東京に近い自治体（船橋・柏・浦安）では東京依存型の受診行動である。潜在的患者（東京受診）を過小評価し、地域の現状医療資源を額面通り評価すると、高齢化社会に対応した HIV 診療が後手に回る可能性がある。

千葉市は、比較的地域完結型の受診行動をみられ、2 つの拠点病院を中心とする診療体制が確立していた。高齢化（50 歳以上の患者）の進行を想定し、拠点病院と地域の医療機関との連携を進める基盤が整備されている。

A. 研究目的

HIV 感染症患者の高齢化と地域連携の課題に取り組むため、HIV 感染症患者の受診動向を把握することを目的とした。

全国的に HIV 感染症患者の高齢化が進行している。2019 年、千葉大学医学部附属病院に通院する患者（315 人）では 50 歳以上の患者が占める割合は 40%を超過した。千葉県健康福祉部疾病対策課の県域調査（2018）では、1441 人の HIV 感染症患者がおり、40 歳以上は 52.9%、50 歳以上は 17.6% という結果であった。地域間の格差があると考えられる。しかし、全国的な動向を踏まえ、HIV 患者の高齢化を想定した診療体制を構築する必要がある。

千葉県内では、身体障害免疫機能障害の認定をとり、自立支援医療で抗 HIV 薬による治療を受けている患者は 1394 人である。（2020 年 3 月末）千葉市・船橋市・市川市・松戸市・柏市・浦安市の 6 自治体で、全体の 60%であった。

この地域の HIV 感染症患者の年齢別分布、受診行動を把握することで、地域連携の課題と方向性を探ることとした。

B. 研究方法

千葉市障害者福祉センターに依頼し、2019 年度の自立支援医療の対象患者の年齢と診療病院を調査する。船橋市・市川市・柏市・松戸市 各自自治体の自立支援医療担当部署に依頼し、自立支援医療の対象患者の年齢と診療病院を調査する。（年齢と診療病院情報は非連結）（千葉市分は、千葉大学大学院医学研究院にて倫理審査承認。他地域は、個人情報に抵触しない範囲での情報提供をとりました。）

C. 研究結果

1 調査対象者数

調査対象患者総数は 769 人であった。千葉県内の免疫機能障害の自立支援医療を受けている患者 1394 人の 55%に相当する。

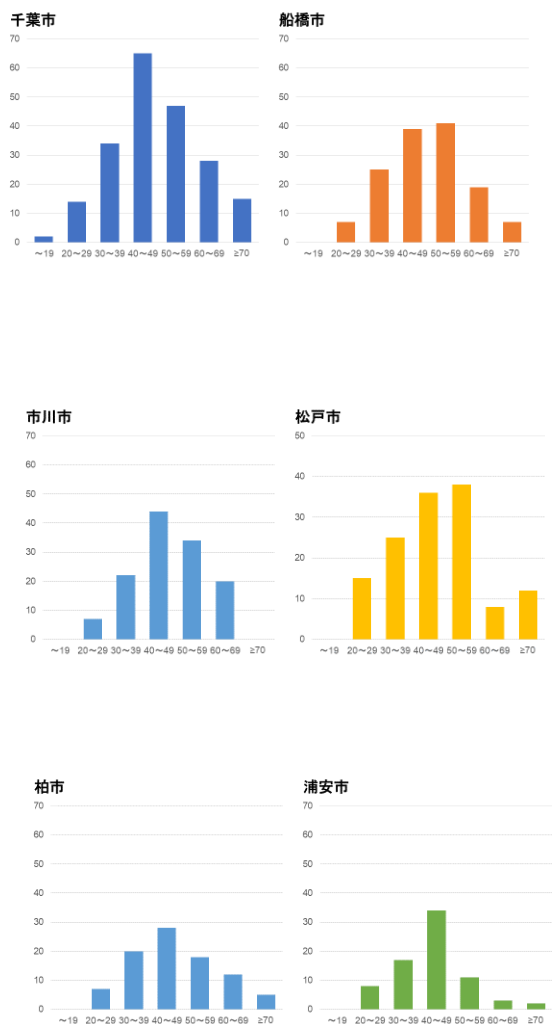
2

3 免疫機能障害者数の年齢分布 表 1 図 1

表 1 免疫機能障害の年齢階級別分布 2020

	千葉市	船橋市	市川市	松戸市	柏市	浦安市
～19歳	2	0	0	0	0	0
20～29歳	14	7	7	15	7	8
30～39歳	34	25	22	25	20	17
40～49歳	65	39	44	36	28	34
50～59歳	47	41	34	38	18	11
60～69歳	28	19	20	8	12	3
≥70歳	15	7		12	5	2

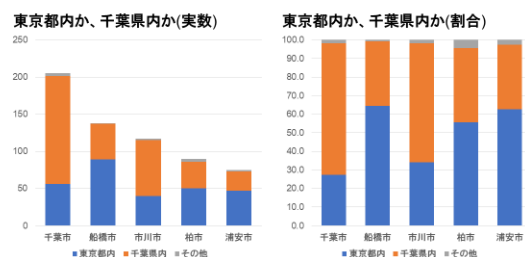
図1 自治体別の年齢階級患者数 2020



千葉市、船橋市、市川市、松戸市では、50歳以上の割合が40%を超過していた。60歳以上の数値をみると、千葉市、船橋市、柏市の高齢化が進んでいた。浦安市だけは、40歳未満の割合が少なく、高齢化の進行が遅れていることが判った。

5 免疫機能障害者の受診行動 図2

図2 免疫機能障害者の受診行動(2020)松戸市以外



千葉市と市川市については、それぞれ70.7%、64.1%が千葉県内の医療機関を受診しており、地域密着型の受診行動をとっていた。

一方、船橋市、柏市、浦安市については、東京都内の医療機関を受診する者が半数を超える結果であり、東京都内依存型の受診行動であった。

松戸市については、調査結果がえられなかった。

免疫機能障害者の年齢分布をヒストグラムで提示すると、千葉市、市川市、柏市、浦安市では40～49歳にピークがあった。船橋市と松戸市では50～59歳にピークのある分布になった。

4 高齢化の指標 50歳以上、60歳以上の割合表2

表2 免疫機能障害者の年齢分布分析(2020)

	千葉市	船橋市	市川市	松戸市	柏市	浦安市
30歳未満の割合(%)	8	5	6	11	8	11
40歳未満の割合(%)	24	23	23	30	30	33
50歳以上の割合(%)	44	49	43	43	39	21
60歳以上の割合(%)	21	19	16	15	19	7

D. 考察

千葉県内の HIV 感染症患者は40歳代が多かった。50歳以上の患者比率は、自治体間で差がみられた。

現在実施されている抗ウイルス療法は強力なもの、長期生存を保障するものである。図1に示したヒストグラムが高齢の方へシフトしていくことが予想される。今後10年後には50歳以上の患者比率が確実に増加する。

東京に近い自治体である船橋市、柏市、浦安市では東京依存型の受診行動であった。潜在的患者(東京受診)を過小評価し、地域の現状医療資源を額面通り評価すると、高齢化社会に対応した HIV 診療が後手に回る可能性がある。

千葉市は、比較的地域完結型の受診行動をみられた。詳細は他の研究に手報告するが、2つのエ

エイズ診療拠点病院(千葉大学医学部附属病院と国立病院機構千葉医療センター)を中心とする診療体制が確立していた。高齢化(50歳以上の患者)の進行を想定し、拠点病院と地域の医療機関との連携を進める基盤が整備されている。

市川市の場合は、千葉市の事情とは異なる。千葉県内受信者が多いが、市内にエイズ診療拠点病院がない。このため市外の病院を受診している。具体的には、浦安市、松戸市、柏市の病院が多い。

HIV 感染症患者の高齢化は、いわゆる生活習慣病などの併存疾患の診療と、介護・看取りがあげられる。これらを地域の医療機関に依頼する場合も、エイズ診療拠点病院のリーダーシップと診療助言が必要である。

E 結論

千葉県内の HIV 患者の年齢分布、受診行動、自治体間の違いを明らかにした。高齢化と東京依存型の受診行動を想定し、千葉県内の HIV 診療体制の構築が必要である。

F 健康危険情報

本研究では介入研究ではないため特記すべき健康危険情報はありません。

G 研究発表

1 論文発表

なし

2 学会発表

猪狩英俊 他 千葉県内の HIV 感染症患者の受診行動と地域医療の課題 第 33 回日本エイズ学会

3 その他 2019 年 2 月 27 日 船橋保健所主催の HIV 啓発講習会で公表

H 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし